



FUJI WOMEN'S UNIVERSITY

No.79

Dec.20, 2024

# 藤

藤女子大学  
広報



ピンクリボン in SAPPORO 2024  
書道パフォーマンス作品

## CONTENTS

- 【特集】新学長インタビュー／2
- My Life -卒業生たちのいま-／5
- 働く女性に贈る、北海道産ハーブティーのプロジェクト／5
- 大学祭実施報告／6

2024年4月に就任した渡邊頼純学長。現在の心境や、  
渡邊学長が考える藤女子大学の今後のビジョンについてお聞きしました。

※インタビューは2024年10月に実施しました。

## Q1.学長に就任してから約半年、現在の率直な気持ちをお聞かせください。

藤女子大学の学長として私は10代目。藤学園としては2025年に創立100周年を迎えますが、次の100年に向けての大切な時期に学長に就任したことについて、責任の重さを痛感しています。また、初めて聖職者ではない者が学長に選任されたことも、本学の大きな変化の象徴となっているように思います。私としては一人のカトリック教徒としてこれまで藤が大切にしてきた価値観と伝統に基づき、一人ひとりの学生を神様からお預かりした大切な存在として育てていきたいと考えています。

## Q2.現在、どのような取り組みに力を入れていますか？

いわゆる「大学全入時代」の今日、各大学は入学者獲得に向けて様々な施策を展開しています。そのような状況の中で私は2つのことを考えています。一つは本学の魅力をより積極的に発信することです。12月には初の試みである「藤オープン・リサーチ・フォーラム (Open Research Forum = ORF) を開催します。ORFでは本学に在籍する約70名の専任教員が、日頃の研究テーマをパネル展示やポスターセッションで紹介します。これまでもオープンキャンパスなどでこのような取り組みをしてきましたが、ORFの会場は大学のキャンパスではなく札幌駅と大通駅を繋ぐ地下歩行空間「チ・カ・ホ」。つまり、大学に来てもらうのではなく、



大学の方が外に出て行くわけです。

もう一つは優秀な留学生の受け入れです。18歳人口の減少が続く中、国際的な次元での学生の確保は喫緊の課題だと認識しています。現在、本学には15を超える海外の協定大学があります。これまで多くの学生を協定校へ送り出してきましたが、一方で受け入れについては台湾や韓国の大学からの若干名に留まっています。今後は海外の協定校を増やすとともに、海外からの留学生受け入れを積極的に行いたいですね。また、本学はカトリック大学ですので、世界に広がるカトリック大学のネットワークも藤の国際化の大きな支えになります。将来的にはキャンパスを日本人学生と世界から来た留学生とが共に学ぶ「グローバル・コモンズ」にしていきたいと考えています。



学長の発案により開催された日本語サマースクール。中国の学生が本学にて2週間にわたり日本語学習や文化体験を行った。

## Q3.学生との関わりや、その中で感じる印象を教えてください。

本学ではこれまで学長による授業はありませんでしたが、私は学生たちとの接点が欲しいと願い出て、4月より北16条キャンパスで「国際関係論」の授業を担当しています。92名の学生が履修登録してくれました。来年度は時間割を工夫して花川キャンパスでも授業をしたいと思っています。

私の講義では毎回リアクション・ペーパーを書いてもらいますが、これを読むのはいへん楽しい時間です。多くの学生が授業の感想や疑問点を真剣に書いてくれて、時には私の方がはっとさせられる指摘もあります。授業の冒頭でそのいくつかを読み上げてコメントし学生と共有しますが、他の人がどのような考えをもって出席しているかに関心があるからでしょうか、皆じっくりと耳を傾けてくれます。

「国際関係論」の授業では、一度外務省から女性外交官を招き、講演していただいたことがあります。その外交官がカトリック系の女子校・女子大の卒業だったこともあり、学生たちはたいへん親近感をもったようで熱心に聞き入って



藤の良き伝統を  
大切にしながら  
「時のしるし」を  
見失うことなく。

いました。私自身、約10年間在外公館や外務本省で働いていたこともあり、将来的には本学からも外交官を輩出したいと考えています。そのような思いから勉強会をやりませんかと学生たちに呼びかけたところ7人の学生が集まってくれて、「国際問題研究会」というサークルを立ち上げました。本学の学生たちは品があってセンスがよく、何事にも真面目に取り組んでくれる印象ですね。



第2回来共創フォーラムには国際問題研究会の学生も登壇。

#### Q4.藤の今後のビジョンについて、どのようにお考えでしょうか。

2025年4月から花川キャンパスに「ウェルビーイング学部」が誕生します。現在の「人間生活学部」からの名称変更になりますが、これまでの3つの学科での研究と学びを受け継ぐと同時に新たな展開を期するものです。“ウェルビーイング”という言葉はまだ日本で十分根付いたものではありませんが、その意味するところは人間として「より良くある状態」を指しており、自己充足と自己実現を模索し実現することを目指しています。1992年4月に人間生活学部が発足した時にもそうであったように、このウェルビーイング学部も北海道では初めて、全国でも2番目ということで、まさに先駆的な役割を演じることになります。私としては単に学部の名称として掲げるだけでなく、学生をはじめ本学の教職員、同窓生、そして保護者の皆様といった藤全体のステークホルダーのウェルビーイングを実現することを究極の狙いとして教育及び研究に邁進して行く所存です。

学生のウェルビーイング向上という点では、花川キャン

パスの校舎にエアコンを完備するほか、バスの減便でも通学が困難になることを回避するために大学名を車体にラッピングした新車のバスを大小1台ずつ導入し、無料のスクールバスを運行することにしました。これからは、学生たちに快適な学修環境を提供できるよう努めていきます。



2024年12月より運行する無料スクールバス

#### Q5.読者の方へメッセージをお願いします。

今年度、藤学園は天使学園と法人合併し、「藤天使学園」として新たな出発を遂げました。次の100年に向けてこれまでの藤の良き伝統を大切にしつつも、日々刻々と変化する現代社会に対応するために藤女子大学は変わり続けなければなりません。1960年代前半の第二バチカン公会議でカトリック教会は「時のしるし」を見て「教会は常に刷新されなければならない (ecclesia semper reformanda)」というテーゼを掲げました。今日の大学についても同様のことが言えると思います。本学も「時のしるし」を見誤ることなく、大学の刷新を続けて参ります。

#### Profile

渡邊 頼純 (わたなべ よりずみ)

大阪府出身。76年上智大学文学部哲学科卒業。78年College of Europe経済学専攻修了。90年上智大学大学院国際関係論専攻博士後期課程単位取得満期退学。慶應義塾大学総合政策学部教授や関西国際大学国際コミュニケーション学部長などを歴任した他、実務面ではGATT事務局エコノミック・アフェアーズ・オフィサー、外務省経済局参事官、外務省参与などを務めた。23年10月1日より藤女子大学副学長に就任。24年4月から現職。





# 藤女子大学の国際交流



## 日本語サマースクール

2024年7月8日(月)から22日(月)まで「日本語サマースクール」を実施し、中国の蘇州城市学院の学生15名が参加しました。2週間という短い期間に、日本語授業に加え、着物体験や専門学校訪問、本学教員の



美瑛町の白金青い池を背景に

講義、富良野への小旅行などがあり、忙しいスケジュールだったと思いますが、日本語・日本文化への理解を深める機会になったのであれば幸いです。また、授業後や週末には本学学生との日本語、英語、中国語をまじえた交流が見られ、本学学生にとっても多くの学びがあったようです。

(日本語教員養成課程  
日本語・日本文学科 教授 副田 恵理子)

## 学生の感想

文学部 英語文化学科 4年  
N.Mさん(左)

フィールドトリップで時計台や大通公園を散策しました。夕食の場では、英語を用いて中国と日本の共通点や相違点を教え合い、貴重な学びの時間となりました。



文学部 英語文化学科 4年 T.Yさん(右)

日帰りツアーで富良野、美瑛、旭山動物園を訪れました。北海道の美しい自然や動物、食事を留学生に紹介できたことが貴重な体験になりました。

## 日中友好協会の中国派遣

「日中友好大学生訪中団」とは、公益社団法人日本中国友好協会が「中国の大学生と交流し相互理解を深め、中国の生活文化に直接触れ、より客観的に中国を理解することを目的」(※)に毎年実施しているものです。今年度「第2陣」に本学から4名が参加し、9月3日(火)～9日(月)の期間、上海、四川、北京を巡りました。訪問先では、学生交流イベントや伝統文化体験に参加するとともに、大学や成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地などを見学しました。※募集要項より抜粋



上海夜景観賞クルーズ



パンダを間近で見学

## 学生の感想

文学部 英語文化学科 3年  
Y.Sさん(左)

自分が現地に行って初めて中国という国について知ることができました。文化や伝統を学ぶのはもちろん、ご飯も美味しく、現地の方もとてもいい人ばかりでした。他大学の仲間と過ごした時間は一生の思い出です。



文学部 英語文化学科 3年 Y.Hさん(右)

多くの人と交流したり現地の雰囲気を見たりしたことで、自分の持っていた中国に対するイメージが大きく変わりました。貴重な経験を通して団員との仲も深まり、かけがえのない思い出になりました。

## PMFでのボランティア活動

パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌(PMF)は1990年、世界的な指揮者レナード・バーンスタインがロンドン交響楽団と共に札幌で創設し、今日ではウィーンやベルリンなど世界の著名なオーケストラで活躍する音楽家たちが指導にあたっている国際教育音楽祭です。毎年夏の約1カ月間、世界中から集まる若き音楽家達「アカデミー生」の研鑽の場となっています。今回55名の学生が、PMFを支えるボランティア団体「ハーモニー」の活動に参加させていただきました。



振袖・袴など、着付けは全て着衣の上から行います。札幌コンサートホールKitara内で実施。

日本伝統文化体験のお手伝い、休憩スペースでの交流、コンサート受付やグッズ販売など、活動は多岐に渡りました。

## 学生の感想

文学部 文化総合学科  
3年 F.Yさん

私は藤女子大学弓道部に所属しており、今回はせっかくの機会なので、弓道の袴を着用し、PMFのアカデミー生・教授の方々に着付けをしました。どの方も大変喜んでくださり、日本の伝統的な着付けを通じて、直接お話しすること以外のコミュニケーションができることを肌感覚で感じることができました。





人間生活学部 子ども教育学科 2024年卒業  
札幌市立桑園小学校

T.Kさん

### 大学での学びを糧に

藤女子大学の子ども教育学科一期生として卒業後、札幌市内の小学校で教諭として働いています。今年度は4年生の担任として日々子どもたちと一緒に学んでいます。主な仕事としては、学級経営をして子どもたちに勉強を教えること、学校生活についての指導などです。勉強は、国語・算数・理科・社会・体育・音楽・図工・道徳・総合を教えています。本校では外国語の専科の先生がいらっしゃるので、外国語はお任せしています。その他にも委員会やクラブ活動の指導もあります。小学校教諭の一番のやりがい子どもたちの成長を感じられたときです。できなかったことができるようになったり、行事に向けて頑張る姿を一番近くで見守ったり、子どもたちと一緒に自分自身も成長していくことができるそんな仕事です。



私は大学入学当初から、小学校教諭になることを目標にしていたため、実際の現場を自分の目で見ることを意識していました。今の学校現場は自分が小学生だった頃とは異なることも多いため、ボランティアやゼミの活動の中で現場に触れる経験をしたことが今に繋がっていると感じています。

大学生活は自分の興味のあることはもちろん様々なことにチャレンジすることができる貴重な時間だと思います。そして、その経験が社会人になってからも役立つと思います。ですから、悔いの残らないよう勉強、アルバイト、部活、趣味など充実した大学生活を送ってください。

## 働く女性に贈る、北海道産ハーブティーのプロジェクト



人間生活学部  
人間生活学科 4年  
T.Mさん

私たちはプロジェクトマネジメントⅢの授業で北海道産のハーブを使ったハーブティーの開発を行いました。

このプロジェクトは、札幌で働く女性をサポートすることを目的としています。北海道のハーブを使用することで、自然への感謝や愛着を高め、地域に根差した商品作りを行っています。さらに、働きながら育児や家事を達成する女性たちのリラックスや健康促進をサポートする取り組みとして、札幌の女性起業家の方々と連携しながら進めています。2024年6月には「さっぽろまちキャンパス共創事業(※)」に申請し採択され、補助金を受けることができました。その後、ハーブの刈り取りから試作等のプロセスを学び、無事に商品が完成しました。

出来上がった商品を地下歩行空間でのイベントや大学祭で販売し、ターゲットである「働く女性」の皆様はもちろん、多くの方々に届けることができ嬉しく思います。少しでもこの商品がまちへの愛着や日々の癒しになれば幸いです。



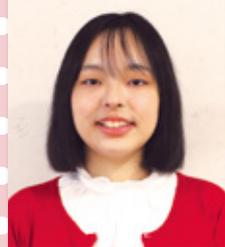
※札幌市が主催する事業の一つ。大学に所属する学生団体と札幌市内で活動する地域団体が連携・協働して行うまちづくり活動に対し、補助金が交付されるもの。



活動の様子はこちら

# 大学祭実施報告

## 藤陽祭



### 節目となる藤陽祭

北16条キャンパス大学祭  
藤陽祭実行委員会委員長  
文学部 文化総合学科 3年  
I.Hさん

第60回という節目を迎えた今年のテーマは、ドイツ語で藤を意味する「Glynize」。藤の花言葉は「歓迎」で、お越しいただくすべてのお客様を歓迎したいという思いを込めました。

当日の朝には例年よりも多くのお客様が並んでおり、開場を心待ちにされている様子に大変驚きました。各団体による模擬店や展示は昨年度よりも数が増え、活気あふれる様子でした。毎年人気のヘアアレンジを体験できる専門学校とのコラボ企画は、これまでの伝統を引き継ぎつつ、「Salon SOLEIL」と名前を変えて様々な人が参加しやすいブースを目指しました。また、昨年度からご協力いただいているPanasonic様には美容機器の体験コーナーの出展だけでなく、美容講座も行っていただき

ました。実行委員では子どもたちに大人気の縁日ブースや、模擬店を巡ることで参加できる抽選会を運営しました。講堂ではサークル・有志発表のフジステが行われ、高校生漫才コンビの偽ビートルズさんにも出演いただきました。また、トークショーのゲストには声優の柿原徹也さんをお迎えし、大盛況を収めました。

先輩方から引き継いだ歴史を踏襲しつつも、新鮮な藤陽祭をお届けすることができたと思います。振り返ると充実した日々ばかりを思い出すことができるのは、実行委員の仲間はもちろん、職員の方や地域の方、ご協力いただいた企業様方のおかげです。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

来年度の藤陽祭がより一層魅力的なものとなるよう心から祈っております。



## 藤花祭



### シン・藤花祭

花川キャンパス大学祭  
藤花祭実行委員会委員長  
人間生活学部  
子ども教育学科 2年  
T.Aさん

藤陽祭との連日開催となった第31回藤花祭は、たくさんの方にご来場いただき、今までにない盛り上がりで幕を閉じました。

こどもれくばーくやふわふわ遊具の導入、巨大迷路、フードコート、模擬店表彰など、新しいことに挑戦するのはとても不安でしたが、自分たちで考えて、“できるかな”ではなく“やってみせる”という気持ちで、とにかく行動に結びました。これこそが私たちの強みだったと思います。

今年度の藤花祭実行委員会は人数不足ではありましたが、決して楽しくない準備もあったのに、信じてついてくれた頼もしい1年生、辛い時も励まし支え合った2年生、優しく相談に乗っ

てくれた3年生、とても素晴らしい仲間恵まれたおかげで、乗り切ることができました。

藤花祭が終わってしまい寂しい気持ちもありますが、10月末に開催した「藤花祭感謝祭inハロウィン」など、別のイベントも引き続き開催しようと計画しております。私たちのやる気は止まるところを知らず、第32回藤花祭に向けて動き出しています。

模擬店や花キャン音楽会でのパフォーマンスなど、今年度も本当に多くの方々に支えられ、開催することができました。学生、教職員の皆様、地域の皆様に、心より感謝申し上げます。これからも皆様との繋がりを大切にしながら、来年もまた素敵な藤花祭になるように、一生懸命活動してまいります。



# 藤女子大学 未来共創フォーラム 2024

今年度は計3回の講演会が開催され、6月には絵本作家である降矢なな氏、9月には渡邊頼純学長、11月にはUHB北海道文化放送の報道番組プロデューサーである涌井寛之氏に登壇いただきました。フォーラムでは講演のほか、在学生や卒業生とのトークセッションなども行われました。



## 2024年度公開講座・講演会等

2024年11月 現在

- 2024年6月30日 第1回 藤女子大学未来共創フォーラム  
絵本作家 降矢ななさん 講演会
- 7月7日 第1回 藤女子大学まちかどCONNECT  
源氏物語の男と女
- 9月5日 日本語・日本文学科 集中講義  
特別公開講演会  
「少女マンガの可能性」が示すもの  
-少女マンガにおける〈少女〉の表象
- 9月6日 藤女子大学英語文化学科 公開講演会  
文法をしっかりと教えても、なぜ使えないようにならないか？  
-第二言語習得から考える
- 9月7日 第2回 藤女子大学未来共創フォーラム  
渡邊学長講演「2024年アメリカ大統領選挙と  
日米関係の行方-北海道へのインパクト」
- 9月28日 藤女子大学キリスト教文化研究所  
第24回公開講演会  
聖フランシスコの精神とラウダート・シ
- 10月5日 第1回 教職課程講演会  
変化する社会のキャリアデザイン  
-社会の変化とこれからの社会で求められるスキルとは-
- 10月19日 第2回 藤女子大学まちかどCONNECT  
学習者を前景にエンゲージメントをもとめる英語授業
- 11月2日 第3回 藤女子大学未来共創フォーラム  
UHB共同企画「子どもの貧困問題を考える  
~教育支援の現状と今後の在り方」
- 11月9日 第2回 教職課程講演会  
不登校親子の現状と教師の対応のヒント  
~親の会の活動から~
- 11月14日 第1回 藤国際フォーラム  
アメリカ大統領選挙後の世界  
~日本外交の展望は~
- 11月30日 藤女子大学キリスト教文化研究所  
公開講座  
オルガンに親しむII
- 12月1日 Fuji Open Research Forum (藤ORF)
- 12月14日 第3回 教職課程講演会  
半世紀にわたる教職生活を振り返って
- 2025年1月25日 図書館情報学課程公開講演会  
児童の読書意欲を高める札幌市開放図書館事業の未来
- 2月23日 第3回 藤女子大学まちかどCONNECT  
地域連携・協働による北海道産食材を用いた食品開発

## まちかど CONNECT

まちかどCONNECTは社会貢献活動の一環として、昨年度より開始した企画です。7月には『源氏物語』の魅力や解釈、10月には言語学習における生徒のエンゲージメント(参加・没入)をテーマに開催し、多くの皆様にご参加いただきました。次回は2月に以下のテーマで開催予定です。ぜひお越しください。



2024年度 第3回 2025年2月23日(日) 14:00~15:00

「地域連携・協働による北海道産食材を用いた食品開発」

会場：紀伊國屋書店札幌本店 1階 インナーガーデン

講師：人間生活学部 食物栄養学科 菊地 和美 教授

公開講座・講演会の詳細、開催報告は  
大学ホームページからご覧いただけます。



### 心よりご冥福をお祈りいたします。

元藤女子大学文学部国文学科  
教授 松本 暎子様



2024年7月2日ご逝去 96歳  
1968年藤女子短期大学講師として着任。1971年同助教授、1977年藤女子大学教授、また、1996年には札幌市民芸術賞を受賞。1998年3月に定年退職。その後も2000年まで嘱託教授として勤務され長年に亘り本学を支え、学生の教育にご尽力いただきました。

元藤女子大学文学部文化総合学科  
教授 終 暁生様



2024年7月30日ご帰天 78歳  
1992年藤女子大学講師として着任。1996年同助教授、2002年藤女子大学文学部文化総合学科教授。2009年3月に退職。在職中は、2001年~2009年までの間、キリスト教文化研究所長を併任し、長年に亘り本学を支え、学生の教育にご尽力いただきました。

元藤女子大学事務局 学生課長  
中野 修様



2024年9月28日ご逝去 91歳  
1992年藤女子大学事務局学生課長として勤務。その後、1995年からは花川事務室、1997年からは事務局総務課にて勤務し、1998年3月定年退職。

# 大学へのご支援ありがとうございます

藤女子大学の寄付募集活動は、みなさまの温かいご支援により、2012年度からの累計が2億円に達しました。藤学園創立100周年記念事業に向けたご寄付につきましても重ねてお礼申し上げます。ここに感謝の意を表しご芳名を掲載させていただきます。2024年度のご寄付につきましては、次号の広報「藤」にて、用途等をご報告いたします。

## 大学への寄付者ご芳名 (第24回) 期間 2024年4月1日～2024年9月30日 (敬称略・お申込順)

〈保護者〉 匿名 2名	〈卒業生〉 阿部和加子 匿名 9名 福井 裕美 計 11名	〈教職員・役員〉 匿名 2名	〈旧教職員・旧役員〉 布施 英憲 計 1名	〈その他、法人等〉 株式会社 代表取締役 平野 優 渡邊 清子 計 3名 藤の実会
----------------	-------------------------------------	-------------------	--------------------------	---

計19件 2,680,000円

2012年度実績: 377件 12,081,866円	2016年度実績: 179件 16,758,365円	2020年度実績: 141件 15,455,587円
2013年度実績: 277件 17,413,757円	2017年度実績: 153件 10,983,201円	2021年度実績: 135件 4,570,376円
2014年度実績: 191件 76,223,954円	2018年度実績: 126件 13,001,473円	2022年度実績: 120件 6,384,554円
2015年度実績: 181件 6,402,354円	2019年度実績: 139件 16,256,260円	2023年度実績: 147件 5,616,040円

2012年4月～2024年9月末までの累計 203,827,787円

## 藤学園創立100周年記念事業へのご寄付ご芳名 (第6回) 期間 2024年4月1日～2024年9月30日 (敬称略・お申込順)

〈保護者〉 坂井 則公 西山 英明 計 2名	〈卒業生〉 有馬 智実 和田 佳子 品田香屋子 関根 君恵 内藤 陽子 藤の実会 宮古 信子 吉川 望 齊藤 素子 根岸 節子 匿名 2名 計 1名 今井 隆子 篠原 洋子 酒井 晴世 堤 香織 計 15名	〈その他、法人等〉 計 1名
------------------------------	--	-------------------

計18件 557,050円

2021年度実績: 1件 50,000円 2022年度実績: 9件 240,000円 2023年度実績: 35件 3,680,000円

2021年4月～2024年9月末までの累計 4,527,050円

## 大会入賞の記録

本学の学生が各大会において優秀な成績を収めました。  
おめでとうございます。 2024年11月 現在

### 令和6年度 第45回 牛乳・乳製品利用料理コンクール実演審査会

●優秀賞 人間生活学部 食物栄養学科 1年 N.Rさん

### 第33回 YOSAKOIソーラン祭り

●優秀賞 藤・北大&ホンダカーズ北海道

### 第7回 ご当地タニタごはんコンテスト

●優秀賞 人間生活学研究科 食物栄養学専攻 1年 I.Mさん

## クラブ・サークル紹介

## 書道部

### 「仮名の藤」をご存知でしょうか？

私たち藤女子大学書道部は長年「仮名の藤」と称されています。その所以は「仮名」を中心に、漢字、近代詩文書を織りなす書活動にあります。長い歴史を誇る藤女子大学書道部が築いてきた「仮名の藤」の伝統を基盤に日々、展覧会に向けてエネルギー溢れる作品を制作しております。部活動において主たる目的である展覧会活動では、年度の集大成を発表する「わかな書展」をはじめとし、「創玄展」、「北海道書道展」、「毎日書道展」等の大規模の展覧会に作品を出品し、部員各々、優秀な成績を残しております。

また、今年度は「ピンクリボン in SAPPORO 2024」において書道パフォーマンスを実施させていただきました。地下歩行空間での書道パフォーマンスは新型コロナウイルスの収束後、初の学外での活動だったため、部員と子ども胸躍る活動でした。楽曲準備、作品構成、振り付け等を2学年が中心となって考えた全4曲のパフォーマンス作品を地下歩行空間で完成させることができ、多くの反響をいただくことができました。この先も私たちは「仮名の藤」としてあらゆる面で書活動を広げていきます。「仮名の藤」。この一言だけでも覚えていただければ幸いです。

なお、2025年2月19日(水)からは札幌市民ギャラリーにて「第59回藤女子大学卒業制作書展」、「わかな書展」を開催いたします。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



ピンクリボン  
in SAPPORO 2024  
のパフォーマンス  
の様子はこちら



書道部の  
詳細はこちら

書道部部长  
文学部  
日本語・日本文学科 3年  
K.Sさん



# ★教えて! 先生 第2回

本学の教員やその研究内容を紹介する企画「教えて!先生」。第2回である今回は、今年度4月に着任した伊藤先生に「古辞書」や本学での講義についてお話を伺いました。



文学部 日本語・日本文学科  
講師 伊藤 智弘

## 自己紹介

出身は長野県、2023年度に博士課程を大阪で修了して、本学に来ました。ついこの間まで学生(大学院生)だったのに、学生さんたちとは10歳くらい年が離れているので、感覚と現実の温度差で風邪をひきそうな毎日です。

## 古辞書とは?

私が専門にしている「古辞書」は、その名の通り古い時代の辞書で、特に近世よりも前のものを指します。ただ、「辞書」とはいても、現代の辞書とはかなり違ったもので、文献ごとに性格がそれぞれ異なっています。それらの内容は、過去の日本人が言語や文字をどのように扱っていたのか、その手掛かりの一つになります。

## 本学で教えていること

本学では、古辞書についての講義(日本語学研究)や演習(日本語学演習)のほか、日本語学の講義(日本語学)を担当しています。

「日本語学研究」では、日本の「辞書史」をたどることを大きなテーマとしながら、個々の古辞書の具体的な内容や、その成立背景・成立目的などについて、実際に資料の画像も見ながら、考えていきます。古辞書に限らず、古い時代の文献とはどういうものか、ということを知る・考えることができるようになってもらいたい、と思っています。「日本語学演習」はいわば「実践編」で、ゼミ生各自が実際に古辞書を使用して、調査を行います。



「字鏡集」(13世紀中ごろ成る)  
永正写本(右)と昭和刊行の校合本(左)



図書寮本「類聚名義抄」(1100年前後成る)



「日本語学」では、日本語の歴史に関わる講義をしています。普段意識することはありませんが、私たちの日本語は様々な歴史を背負っています。古い時代の文献を読んだり、現代のことばに見られる歴史の痕跡を探したりすることで、その歴史をたどっていくことができます。ことばの歴史を知ることを通して、今の自分たちのことばについても、より深く知る・考えるための手助けになれば、と思っています。

教える側としてはまだまだ「新入生」ですから、どうすれば講義をより面白く展開できるのか、探っていきたいです。

教員紹介  
はこちら▶



## 彫刻作品を通して 札幌の魅力に触れました

文総ちようこくみがき隊 メンバー  
文学部 文化総合学科 3年

I.Kさん



札幌彫刻美術館友の会が主催する屋外彫刻清掃ボランティアに初めて参加し、札幌市内の彫刻の清掃活動を行いました。この活動を通して、普段は通り過ぎるだけの大通公園や街中、中島公園や真駒内など、さまざまな場所に彫刻が点在していること、自分たちの生活するこの札幌という街が芸術に溢れた場所であることを改めて認識しました。

彫刻作品は磨き上げていくうちに光を放ち、手を動かすたびに輝きを増すその姿に、心が洗われます。この体験を通じて、もっと札幌の彫刻に触れ、その魅力を深く知りたくなりました。札幌市の芸術的な一面に新たな愛着を持つことができ、非常に貴重な経験となりました。





# 授業・ゼミ紹介!



## 人間生活学部 人間生活学科 長尾ゼミ (担当教員:長尾 順子 先生)

受講生



人間生活学部  
人間生活学科 3年  
S.Hさん

### Q1: 長尾ゼミではどのような学びや取り組みを行っていますか?

私は幼少期から好きな手芸を大学でも学び続けたいと思い被服のゼミを選択しました。ゼミでは、大学祭での出店に向けた作品作りも行います。「お花」を一つのテーマとし、立体刺繍、組紐、編物など様々な技法を用いて小物を作成しました。また、ゼミのキャラクターであるチマエナガのグッズ作りにも挑戦しました。ゼミの仲間と協働で取り組んだ時間はかけがえのない思い出になるでしょう。



### Q2: 長尾ゼミの魅力は?

多方面に学びを広げ、深められるのが魅力です。ゼミで小物を作るだけでなく、夏休みには北海道立文学館で行われる展覧会に十二単を飾りに行きました。着付け、装飾の作業を通して、十二単の構成や着脱衣の大変さだけでなく、当時の時代背景、文化も学ぶことができました。被服分野の幅広い学びを肌で感じながら学び進められるのが、被服のゼミならではの魅力です。



### Q3: 今後の抱負を教えてください。

私は将来家庭科教員を目指しています。教科書に書かれた内容だけでなく、様々な教材と話題などを組み合わせ生徒の記憶に残る授業をしたいと考えています。そのため広い視野を持ち、ひとつひとつの工程に関連する学びを連鎖させ自由な発想を持ち挑戦することを習慣付けたいと思っています。固定観念に縛られず生徒と共に学ぶ教員となることを目標にこれからも学び続けていきたいです。

## 人間生活学部 食物栄養学科 八島ゼミ (担当教員:八島 絵美 先生)

受講生



人間生活学部  
食物栄養学科 4年  
A.Hさん

### Q1: 八島ゼミではどのような学びや取り組みを行っていますか?

八島ゼミでは、フィールドワークとインタビュー調査を中心に、外国人労働者の食環境改善に関する取り組みを行っています。具体的には、調査協力いただいた外国人労働者の方々に「日本に来てからの食環境の変化」に関するインタビューをし、さらに職場から近隣スーパーまでの所要時間や距離、そのスーパーにおける母国食材の有無および価格等に関する調査を実際に現地に赴いて実施します。



外国人労働者の方へのインタビュー

### Q2: 八島ゼミの魅力は?

様々なバックグラウンドをもった人々に会えること、色々な地域や施設等に行けるところが魅力です。外国人労働者の方々と食事会による親交や他大学のゼミ活動への参加もあり、このような学びは非常に刺激的で多角的な視点を養ってくれます。私はこうした活動や交流によってアジア文化に興味をもち、実際この夏にはプライベートで東南アジアにも行きました。より深くアジア地域の物価や食文化について学ぶことができたと思います。



現地調査の一幕

### Q3: 今後の抱負を教えてください。

卒業研究を進めるにあたり、焦らずに一步一步進めていきたいと思っています。計画性をもって取り組んでいますが、困ったときには仲間や先生方のアドバイスを活かして乗り越えていきたいです。また、外国人労働者の方々と日本語教員、他大学の先生や学生など、沢山の方々にご協力いただいたので、そうした方々に「研究に協力してよかった」と思っていただけのように、感謝の気持ちをもって研究に取り組んでいきます。

## 人間生活学部 子ども教育学科 川見ゼミ (担当教員：川見 夕貴 先生)

受講生



人間生活学部  
子ども教育学科 3年  
S.Aさん

### Q1：川見ゼミではどのような学びや取り組みを行っていますか？

このゼミでは主に音楽に関する論文を読んだり、学びを深めています。たとえば、自分の好きな曲を発表し交流したり、リトミック(※)について実際に専門の先生に教えていただく機会もあります。また、秋には花川キャンパスのロビーでコンサートを行いました。プログラムや楽器編成を自分たちで考え、当日に向けて練習に励みました。



※リズムの要素を中心として、音楽を身体の動きを通して教える教育法



### Q2：川見ゼミの魅力は？

他の授業では触れることがないような様々な楽器を演奏する機会があることや、ロビーコンサートなど、普通の大学生活では経験出来ないようなことが出来るのがこのゼミの魅力だと思っています。3年生・4年生の垣根を越えて全員で意見を出し合い協力しながら活動し、先生も優しく的確なアドバイスをしてくださるので、毎回楽しく充実した活動ができています。

### Q3：今後の抱負を教えてください。

ゼミでの活動を通じて、音楽の専門的な知識や子ども教育における音楽の役割について理解を深め、子どもと音楽の関係について考えていきたいと思っています。また、ロビーコンサートに向けての練習など、みんなで一つのことに取り組むことが楽しかったので、様々な曲を演奏するなど、色々なことを経験していきたいです。

## 大学院研究室紹介

「大学院ではどんなことを学ぶの?」「大学院の魅力は?」  
そんな疑問に本学の大学院生がお答えします!



人間生活学研究科  
食物栄養学専攻 1年  
I.Mさん

### 大学院ではどのような研究や取り組みを行っていますか？

私は、農業、漁業など一次産業が盛んな道南地域に住んでおり、とても食材が豊富です。生産者が減少する中、伝統ある農法で育った食材を地域でどう守っていくかを考え、地元のJA(農業協同組合)と連携し、函館市亀田地区で生産される「雪の下大根」の調理科学的特性からみた研究を行っています。生産地を訪問し、直接現場の声を聞くことから、課題解決に向けた取り組みができることも、より探求的な学びに繋がっています。

### 大学院で学ぶことの魅力は？

私は、社会人入学で、仕事と子育てを両立しながら学んでいます。遠方の為、オンライン授業が中心ですが、年齢の離れた同級生や教授との議論は、物事を深く、広い観点で捉える力を養い、それが仕事や子育てにもプラスになることや、自身の研究にも繋がっていくことが一番の魅力であります。

### 一言メッセージ

社会人として、大学院で学ぶことは自分のキャリアを活かした、より深い学びと研究ができます。教授の皆様もとても丁寧に接してくれ、毎日が充実しております。これから何かをもっと追究したいと思う方は、ぜひ大学院への進学をお勧めします。



雪の下大根の生産者とJA担当者の皆さんと



研究の一環で見学した札幌中央卸売市場

2014年12月号に第1回の記事を掲載して以来、20回予定の最終回を迎えました。当初寄稿を依頼された時、20回も連載が可能かと、自分の年齢を考えますと確たる自信はありませんでした。お陰様で、何とか最後まで続けることができましたことを感謝しております。

当初から最後のテーマは「藤の使命」と考えていました。100周年を迎える「藤」、そしてその中の「藤女子大学」は、次の100年をどのように歩む使命があるのか。最初の100年は土台を堅固に築く年月であったと言えます。次の100年は、その土台の上にもどのように発展させていくことが使命なのか。

はからずも100年目を歩んでいる今年、私は「北海道功労賞」という北海道民として最高に誉れある賞を授与されました。この賞を私個人が受けるというのであれば固辞したかもしれませんが、これは決して私個人に対する賞ではなく、「藤」に関わる全ての人々、すなわち、労苦を共にしてくださった教職員たち、「藤」で学んで巣立って行った数多くの卒業生たち・卒園生たち、この大家族に対して与えられた荣誉であると考え、大変嬉しく喜んで戴くことにしました。この賞は以前「北海道開発功労賞」という名称でしたが、その第1回目にはSr.牧野キク、第3回目にはSr.クサヴェラ・レーメという、藤の創立以来の偉大な先達が受賞しています。そして56回目に不肖私にこの荣誉が与えられたことは、この100年を通じて「藤」の教育が一貫して高く評価されてきたことの証であると、素直に受け止めて感謝しております。そし

てそれは、そこから巣立って行った卒業生たちに対する社会の評価であり、また、教育に携わったすべての方々に対する評価でしょう。

その意味で、次の100年も、創立者たちから連綿と受け継がれてきた「藤」の教育の深さ、つまり神の似姿である人間の尊厳を知って、その尊厳にふさわしく歩むことを中心に据え、更に新しい時代に求められる新しい視座に立つ教育を続けたいと思います。現代は地球的な意識を持つことが必須となっています。物流や情報伝達や通信手段、交通手段など、あらゆることを通じて、世界がひとつにつながっていることを実感します。地球という全人類共通の家に暮らす私たちの意識を育て、世界の人々のウェルビーイングを求めなければ、紛争や戦争は絶えません。世界平和を希求する熱い意識を育て、さらに行動力のある羽ばたく女性たちを育てていくことが重要です。

次の100年に向かって、これからも力を合わせて歩んで参りましょう。



永田理事長の  
北海道功労賞受賞に  
関する記事はこちら



退任された学園の母  
Sr.クサヴェラ・レーメ (1968年)

## 大学紹介動画が放送されました

本学が連携協定を結んでいるUHB北海道文化放送の協力のもと、大学紹介動画の制作が行われ、完成した動画がみんテレ（毎週月～金 午後4時50分～）にて放送されました。全4本の動画では、社会で活躍する卒業生や在学生にスポットが当てられるとともに、学科の学びや2025年4月に誕生するウェルビーイング学部も紹介しています。動画は大学HPにて公開中ですので、ぜひご覧ください。



プロモーション  
動画の視聴は  
こちらから

